

大学開放事業の実証的研究（その2）

——受講申込者の受講維持率の分析——

山 本 和 人

は じ め に

本稿は前稿⁽¹⁾に続き、金沢大学大学教育開放センター主催の開放講座への参加者（受講申込者）および各科目講座への出席状況を検討するものである。前稿では、金沢大学大学教育開放センター（以下センターという）が提供する学習機会（開放講座）と地域住民の学習要求との間の需給関係の検討、講座への出席率を左右する要因の検討などを、開放講座の紹介を兼ねて行った。本稿では、前稿で十分明らかにしなかった事柄に、受講生の側から幾分詳しく検討を加える。すなわち、受講生の特徴を知ること、および、受講生各人が全講義日程にどの程度の回数の出席をするかという受講維持率を検討すること、をねらいとしている。

ここで用いる主な資料（掲載データのもとになるもの）は、前稿と同じく、センター設立以来の受講生名簿および各科目講座への毎回の出欠状況を示す出席簿⁽²⁾である。その他必要に応じて参考にした資料は前稿と同様である。ただし、本稿には、開放講座の昭和55年度分つまり前稿後の資料が追加され用いられている。

なお、ここにいう「受講維持率」とは、各科目講座への受講申込者（受講生）がそれぞれの科目に何回出席したかを示す、「出席回数」に対応するものである。前稿では、各科目・各回の出席率についてその変化パターンを見たが、各回の出席率がわかっても、受講申込者（受講生）の受講維持率＝出席回数がどれくらいであるかを知ることにはできない。そこで今回は、その分析を受講生特性の観点から行なうことにした。

I 受講申込者（受講生）の特性

1. 受講生数の変化と特徴

（1） 受講申込者（受講生）数の変化

センターでこれまでに実施された開放講座の開講科目数と受講申込者（以下「受講生」、「申込者」も、ともに同じ意味で用いる）数を示すと表1のようになる。ここでは、不定期に行なわれる短期集中講座は除いてある。表中、（形態）の欄は、（年間）＝年間（4月から翌年3月まで）を通じて実施される年間継続講座、（前期）・（後期）＝年度を2期に分け（4月～9月、10月～3月）、長期講座（前期）、長期講座（後期）として実施される講座であること、をそれぞれ意味する。

開講科目数を見ると、昭和51、52年度は、年に8科目ずつ開講され、昭和53年度以後は、前期、後期を合わせると、12科目、10科目、9科目と漸減してきている。受講生数という点では、複数の科目を受講する申込者もいるので、実質申込者総数を求めてみると、51年度、52

学		〃	鉄と鋼—その物性と文化史	60	27.3	30, 40, 70	各18.2
	55	長・前	「人類の時代」二百万年間の自然とヒトと	40, 50, 60	各25.0	70	15.9
		〃	やさしいマイコンピュータと電気工学	30	36.0	20	22.0
		長・後	近代科学の成立	60	23.6	50	20.6

分野	年度	形態	科 目 名	最も多い年代		二番目に多い年代	
				年 代	含有率	年 代	含有率
その 他	51	短・集	少年柔道教室師範講習会	—才代	—%	—才代	—%
	54	長・前	園芸講座—草花と野菜—	60	31.3	40	22.9
	55	長・後	雪と生活	60	32.0	50	21.3

ほとんどの科目も共通して40才代が多く見られるが、これは実質申込者の年令別構成でも明らかなことであった。その他の特徴としていくつか指摘できると思われるのは、次のようなことである。

科目を分野別に分類した場合、人文科学の分野では全体として、比較的若い20才代、30才代の多い科目と、50才代、60才代の比較的高い年令層が多くなる科目とがある。逆のいい方をすれば、思想・宗教に関わる科目（たとえば、51・比較思想、52・仏教思想、53・宗教とは何か、55・中国古代思想など）では、年令がどちらかといえば高い層によって受講されている。一方、語学に関わる科目（たとえば、52・サンスクリット語入門、53・中国語（中級））、文学に関わる科目（たとえば、53・西鶴の文学、54・外国文学への招待、悲劇としての英米文学、55・日本の児童文学など）は、比較的若い年代の人によって受講されているといえよう。

社会科学の分野の科目では、40才代の受講生が多いとはいうものの、全体として、50才代、60才代の人よりも、20才代、30才代の受講生の方が多く見られる。そして、51・高齢化社会の福祉と生き方などは60才代が多く、51・社会心理学、カウンセリング講習会、52・日本の政治、55・職業と人生などは20才代が多い。また、53・教育学の基礎、企業経営と法、54・現代母親学などは30才代が多い。このことは、年代による関心のちがいが、科目の年令構成にある程度はっきりと現われているように思われる。

自然科学の分野の科目では、上のようないい方をすれば、やはり40才代が最も多いが、分野全体としては、20才代、30才代という若い年令層の人よりも、50才代、60才代といった高年令層の受講生が多い。とりわけ、60才代の人々は自然科学の科目に対する関心は高いといえるようである。社会的に話題になった事柄についての科目や流行中のトピックスを扱った科目（たとえば、51・人間と自然、52・現代と病気、54・人類と環境放射能、55・やさしいマイコンピュータと電気工学など）では、若い人々の受講が多いが、その他の自然科学の科目は高年令の受講生が多くなっている。

以上のような科目分野別に分類した場合の年代による関心のちがいは、表4をもとに作成した表5によく表われているといえよう。この表は、「含有率」が「最も多い」とランクされた年代と、「二番目に多い」とランクされた年代とが、それぞれ何科目あるかを示したものである。

このように、各科目別に年令構成を明らかにし、その特徴を考えると、そこには、年代による関心の差が現われているように思われる。そして意外であったのは、高齢者の自然科学に対する関心が強いといえそうであるということである。

表5 ランクされた科目数

分野	年代(才代) ランク	10	20	30	40	50	60	70 以上
人文科学	最も多い	—	2	—	12	1	3	—
	二番目に多い	—	4	4	4	3	4	—
	(計)	—	6	4	16	4	7	—
社会科学	最も多い	—	4	5	11	1	2	—
	二番目に多い	1	6	6	7	4	1	1
	(計)	1	10	11	18	5	3	1
自然科学	最も多い	—	1	2	10	1	7	—
	二番目に多い	—	3	3	4	5	2	3
	(計)	—	4	5	14	6	9	3

また、短期集中講座だけをとりあげてみると、社会科学分野の場合ははっきりと、ある一定の年齢層が中心になって受講しているということがわかる(たとえば、51・カウンセリング講習会、52・新入学児を理解する、53・少年期を考えるなど)。

II 受講維持率―出席回数分析

1. 出席回数についてのデータ

ここで示すデータについて、はじめに述べておく。

表6は、昭和52年度から昭和55年度の各年度に開講された開放講座を、科目別に、受講生数、受講生の出席率、講義日数(回数)、出席回数、全回出席者比率等々を求めたものである。これらのうち、出席率については、第1回から最終回までの数値を示すべきであるが、スペースをかなりとられることになるので、第1回と最終回および平均の出席率だけを示した(この出席率の変化パターンは前稿に示してある)。また、出席回数についても、0回から全回まで各回ごと何人の受講生がいるかを一つまり、出席回数別人数を示すべきであるが、やはりスペースの関係で、講義日程の全回数のうち何回出席する人が多いかがわかるように、最も受講生数の多い出席回数(モード)と、二番目に多い出席回数、平均出席回数とを示した。求める値の計算上、平均出席率と平均受講維持率(平均出席回数の講義日数に対する比率)は等しくなる。したがってこれだけでは大雑把な値であるので、第1回と最終回の出席率を示すと同時に、出席回数の状況の一部を示すことにした。さらにまたことわっておくことは、性別、居住地別だけではなく年齢別にも出すべきであるが、各カテゴリーに入る数値が小さくなるため、ここでは除くことにした。

昭和52年度の「現代の法」の科目を例にとれば、次のようになる。受講生数は全部で98人、それらを性別に分けると男53人、女45人、また、居住地別に分けると、市内居住者79人、市外居住者19人となる。それらの出席率を調べると、第1回目、最終回および平均の各出席率は表に示すような値となる。受講生のうち何パーセントが出席していたかがわかる。講義日数というのは、講義日程が全体で何日(回)のものであるかを示すもので、「現代の法」の場合は11

表6 科目別の出席率と出席回数
昭和52年度

形態	科目名	科目者 (受講生 別申込)	受講 生 (人)	出席率 (%)			講義 日 数 (回)	出席回数 (回) (() 内は%)			全 回 比 出 席 率 (%)
				第1回	最終回	平均		モード	二番目に 多い回	平均	
年間継続	現代の法	全 体	98	66.3	27.6	39.2	11	0 (20.4)	1 (13.3)	4.3	12.2
		男	53	60.4	24.5	38.7		1 (22.6)	0 (20.8)	4.2	17.0
		女	45	73.3	31.1	39.8		0 (20.0)	2 (15.6)	4.4	6.7
		市内居住者	79	67.1	29.1	40.1		0 (19.0)	1 (12.7)	4.4	11.4
		市外居住者	19	63.2	21.1	34.7		0 (26.3)	1, 11 (15.8)	3.8	15.8
	人間と自然	全 体	91	50.5	22.0	34.1	9	0 (27.5)	1 (14.3)	3.1	8.8
		男	45	53.3	26.7	39.6		0 (28.9)	4, 9 (13.3)	3.6	13.3
		女	46	47.8	17.4	28.7		0 (26.1)	1 (19.6)	2.6	4.3
		市内居住者	67	50.7	22.4	34.0		0 (31.3)	4 (11.9)	3.1	9.0
		市外居住者	24	50.0	20.8	34.2		1 (29.2)	0 (16.7)	3.1	8.3
	仏教思想	全 体	109	60.6	30.3	42.7	10	0 (13.8)	1 (11.9)	4.3	5.5
		男	58	65.5	27.6	40.2		0 (17.2)	4, 5 (12.1)	4.0	5.2
		女	51	54.9	33.3	45.5		1 (13.7)	2 (11.8)	4.5	5.9
		市内居住者	84	65.5	33.3	45.4		6 (13.1)	1, 2, 3, 5 (10.7)	4.6	6.0
		市外居住者	25	44.0	20.0	32.4		0 (32.0)	1 (16.0)	3.2	4.0
	北陸の自然環境	全 体	63	69.8	30.2	37.9	11	1 (23.8)	2 (14.3)	4.2	11.1
		男	36	69.4	36.1	40.0		1 (22.2)	0, 8 (13.9)	4.4	8.3
		女	27	70.4	22.2	35.2		1 (25.9)	2 (18.5)	3.9	14.8
		市内居住者	52	73.1	28.8	39.6		1 (19.2)	2 (17.3)	4.4	13.5
		市外居住者	11	54.5	36.4	30.0		1 (45.5)	0 (18.2)	3.3	.0
	現代社会と企業	全 体	50	56.0	22.0	33.5	12	0 (30.0)	1 (12.0)	4.0	10.0
		男	41	58.5	19.5	32.0		0 (26.8)	1 (14.6)	3.8	7.3
		女	9	44.4	33.3	41.1		0 (44.4)	12 (22.2)	4.9	22.2
		市内居住者	38	60.5	21.1	34.7		0 (26.3)	1 (13.2)	4.2	7.9
		市外居住者	12	41.7	25.0	30.0		0 (41.7)	3, 12 (16.7)	3.6	16.7
	現代と病氣	全 体	44	45.5	20.5	29.8	10	0 (36.4)	1 (13.6)	3.0	6.8
		男	29	44.8	24.1	32.8		0 (34.5)	3 (17.2)	3.3	6.9
		女	15	46.7	13.3	24.0		0 (40.0)	2 (26.7)	2.4	6.7
		市内居住者	34	52.9	20.6	29.4		0 (32.4)	1, 3 (14.7)	2.9	5.9
		市外居住者	10	20.0	20.0	31.0		0 (50.0)	1, 5, 7, 8, 10 (10.0)	3.1	10.0

短期集中	サン スク リット 語入門	全 体	23	69.6	34.8	45.2	17	1 (34.8)	17 (21.7)	7.7	21.7
		男	12	66.7	16.7	29.2		1 (41.7)	12 (16.7)	5.0	.0
		女	11	72.7	54.5	62.7		17 (45.5)	1 (27.3)	10.6	45.5
		市内居住者	14	71.4	50.0	58.6		1, 17 (28.6)	12 (14.3)	10.0	28.6
		市外居住者	9	66.7	11.1	24.4		1 (44.4)	0, 2, 3, 11, 17 (11.1)	4.1	11.1
	心 の 世 界 を さ く る — 現 代 心 理 学 入 門 —	全 体	26	84.6	42.3	55.6	11	9 (19.2)	1, 3, 7, 11 (11.5)	6.1	11.5
		男	8	87.5	25.0	57.5		11 (25.0)	0, 3, 4, 6, 7, 9 (12.5)	6.4	25.0
		女	18	83.3	50.0	54.4		9 (22.2)	1 (16.7)	6.0	5.6
		市内居住者	17	88.2	52.9	58.8		9 (23.5)	7 (17.6)	6.5	5.9
		市外居住者	9	77.8	22.2	50.0		3, 11 (22.2)	0, 1, 5, 6, 9 (11.1)	5.4	22.2
	展 望 — 日 本 の 政 治 — 分 析 と	全 体	14	71.4	50.0	52.7	8	0, 8 (21.4)	2, 6, 7 (14.3)	4.2	21.4
		男	11	81.8	54.5	59.1		8 (27.3)	0, 2, 7 (18.2)	4.7	27.3
		女	3	33.3	33.3	30.0		0, 1, 6 (33.3)		2.3	.0
		市内居住者	8	75.0	37.5	42.5		0, 7 (25.0)	1, 2, 4, 6 (12.5)	3.4	.0
		市外居住者	6	66.7	66.7	66.7		8 (50.0)	0, 2, 6 (16.7)	5.3	50.0
	中 学 生 — の 世 界 — ゆ れ 動 く そ	全 体	80	78.8	77.5	79.4	6	6 (45.0)	5 (25.0)	4.8	45.0
		男	4	75.0	25.0	45.0		4 (50.0)	0, 3 (25.0)	2.8	.0
		女	76	78.9	80.3	81.2		6 (47.4)	5 (26.3)	4.9	47.4
		市内居住者	70	78.6	78.6	79.6		6 (42.9)	5 (27.1)	4.8	42.9
		市外居住者	10	80.0	70.0	78.0		6 (60.0)	3 (20.0)	4.7	60.0
	新 入 学 児 を 理 解 す る	全 体	45	93.3	86.7	90.2	5	5 (75.6)	4 (11.1)	4.5	75.6
		男	0								
		女	45	93.3	86.7	90.2		5 (75.6)	4 (11.1)	4.5	75.6
		市内居住者	38	92.1	86.8	90.0		5 (76.3)	4 (10.5)	4.5	76.3
		市外居住者	7	100.0	85.7	91.4		5 (71.4)	3, 4 (14.3)	4.6	71.4

昭和53年度

形態	科目名	科 目 別 申 込 者 受 講 生 (人)	受 講 生 数 (人)	出席率 (%)			講 義 日 数 (回)	出席回数 (回) 〔 () 内は% 〕			全 回 出 席 率 (%)
				第1回	最終回	平均		モード	二番めに多い回	平均	
長期 (前期)	万葉の植物	全 体	89	62.9	37.1	43.5	10	1 (16.9)	8 (13.5)	4.3	4.5
		男	28	67.9	50.0	54.3		8 (21.4)	6 (14.3)	5.4	7.1
		女	61	60.7	31.1	38.5		1 (19.7)	2 (14.8)	3.9	3.3
		市内居住者	76	65.8	35.5	44.2		1 (17.1)	8 (14.5)	4.4	5.3
		市外居住者	13	46.2	46.2	39.1		2, 4 (23.1)	1 (15.4)	3.9	.0
	判例入門 による現代	全 体	98	75.5	41.8	52.0	11	9 (12.2)	0, 3, 11 (10.2)	5.7	10.2
		男	65	75.4	35.4	48.3		3 (15.4)	9 (12.3)	5.3	9.2
		女	33	75.8	54.5	59.1		8 (15.2)	5, 6, 9, 11 (12.1)	6.5	12.1
		市内居住者	74	75.7	43.2	53.0		9 (13.5)	5 (10.8)	5.8	8.1
		市外居住者	24	75.0	37.5	48.8		0 (20.8)	11 (16.7)	5.4	16.7
	海底の科学	全 体	54	79.6	37.0	47.4	12	6 (14.8)	3 (11.1)	5.7	9.3
		男	35	80.0	31.4	46.0		1, 2, 4, 6 (11.4)	3, 7, 11, 12 (8.6)	5.5	8.6
		女	19	78.9	47.4	50.0		6 (21.1)	3, 9 (15.8)	6.0	10.5
		市内居住者	40	77.5	37.5	48.0		6 (17.5)	4 (12.5)	5.8	7.5
		市外居住者	14	85.7	35.7	45.7		1, 2, 3, 12 (14.3)	0, 5, 6, 9, 10, 11 (7.1)	5.5	14.3
	西鶴の文字	全 体	102	60.8	49.0	55.6	11	1, 10 (12.7)	11 (11.8)	6.1	11.8
		男	27	70.4	37.0	50.7		1 (18.5)	11 (14.8)	5.6	14.8
		女	75	57.3	53.3	57.3		9, 10 (13.3)	1, 7, 11 (10.7)	6.3	10.7
		市内居住者	85	63.5	50.6	56.8		1, 10 (14.1)	11 (11.8)	6.2	11.8
		市外居住者	17	47.1	41.2	50.0		3, 6 (17.6)	0, 4, 9, 11 (11.8)	5.5	11.8
	入門考古学	全 体	75	56.0	37.3	47.3	6	1, 2 (17.3)	5 (16.0)	2.8	14.7
		男	35	60.0	48.6	50.9		0, 6 (22.9)	5 (17.1)	3.1	22.9
		女	40	52.5	27.5	44.3		2 (25.0)	1 (20.0)	2.7	7.5
		市内居住者	51	58.8	43.1	53.9		5 (23.5)	2 (21.6)	3.2	11.8
		市外居住者	24	50.0	25.0	33.3		1 (33.3)	0 (29.2)	2.0	20.8
	中国語(中級)	全 体	11	81.8	63.6	63.6	24	24 (27.3)	0, 2, 5, 13, 16, 18, 19, 23(9.1)	15.3	27.3
		男	8	87.5	62.5	65.0		24 (25.0)	0, 5, 13, 16, 19, 23 (12.5)	15.5	25.0
		女	3	66.7	66.7	60.0		2, 18, 24 (33.3)		14.7	33.3
		市内居住者	8	75.0	62.5	63.8		24 (25.0)	0, 5, 13, 16, 18, 23 (12.5)	15.4	25.0
		市外居住者	3	100.0	66.7	63.3		2, 19, 24 (33.3)		15.0	33.3
教育学の		全 体	49	79.6	26.5	38.4	12	1, 2, 5 (12.2)	0, 3 (10.2)	4.6	6.1
		男	10	90.0	20.0	37.0		1, 2 (20.0)	0, 4, 6, 7, 9, 12 (10.0)	4.4	10.0
		女	39	76.9	28.2	39.0		5 (15.4)	3 (12.8)	4.7	5.1

長期（後期）	基礎	市内居住者	40	82.5	27.5	39.3		1 (15.0)	2, 5 (12.5)	4.7	5.0
		市外居住者	9	66.7	22.2	35.6		0, 2 (22.2)	4, 5, 6, 7, 12 (11.1)	4.2	11.1
	物質の世界	全 体	37	70.3	48.6	61.3	9	9 (27.0)	7 (13.5)	5.5	27.0
		男	20	65.0	50.0	61.5		7, 9 (20.0)	1, 4 (15.0)	5.6	20.0
		女	17	76.0	47.1	60.6		9 (35.3)	0 (17.6)	5.5	35.3
		市内居住者	26	73.1	53.4	61.5		9 (26.9)	7 (15.4)	5.5	26.9
		市外居住者	11	63.6	36.4	60.9		1, 9 (27.3)	4, 5, 6, 7, 8 (9.1)	5.5	27.3
	生命の科学	全 体	35	68.6	54.3	60.6	10	10 (25.7)	9 (17.1)	6.1	25.7
		男	14	71.4	50.0	65.0		10 (28.6)	3, 5, 9 (14.3)	6.5	28.6
		女	21	66.7	57.1	57.6		10 (23.8)	9 (19.0)	5.8	23.8
		市内居住者	25	60.0	52.0	57.6		9, 10 (20.0)	0 (16.0)	5.8	20.0
		市外居住者	10	90.0	60.0	68.0		10 (40.0)	1 (20.0)	6.8	40.0
	近松とその前史	全 体	66	77.3	37.9	54.0	10	10 (19.7)	1 (15.2)	5.4	19.7
		男	17	76.5	47.1	65.9		10 (29.4)	1, 6 (17.6)	6.6	29.4
		女	49	77.6	34.7	49.8		10 (16.3)	1 (14.3)	5.0	16.3
		市内居住者	57	77.2	36.8	56.0		10 (19.3)	4, 6 (12.3)	5.6	19.3
		市外居住者	9	77.8	44.4	41.1		1 (44.4)	10 (22.2)	4.1	22.2
	現代企業経営と法入門	全 体	47	72.3	40.4	54.5	10	0, 6, 10 (14.9)	3 (12.8)	5.4	14.9
		男	34	70.6	32.4	50.9		0, 10 (17.6)	3, 6 (14.7)	5.1	17.6
		女	13	76.9	61.5	63.8		9 (23.1)	6, 7, 8 (15.4)	6.4	7.7
		市内居住者	33	66.7	30.3	49.7		0, 3 (18.2)	6, 7, 8 (12.1)	5.0	6.1
		市外居住者	14	85.7	64.3	65.7		10 (35.7)	2, 6 (21.4)	6.6	35.7
	宗教とは何か	全 体	40	70.0	45.0	53.3	10	9 (15.0)	2, 8 (12.5)	5.3	10.0
		男	17	58.8	47.1	50.6		2 (17.6)	0, 4, 5, 9, 10 (11.8)	5.1	11.8
		女	23	78.3	43.5	55.2		1, 8, 9 (17.4)	2, 4, 5, 10 (8.7)	5.5	8.7
		市内居住者	34	67.6	38.2	47.9		2, 8 (14.7)	1, 4, 9 (11.8)	4.8	5.9
		市外居住者	6	83.3	83.3	83.3		9, 10 (33.3)	5, 7 (16.7)	8.3	33.3
短期	生活とエネルギー	全 体	15	93.3	66.7	73.3	6	6 (40.0)	5 (20.0)	4.4	40.0
		男	4	100.0	50.0	67.5		1, 4, 5, 6 (25.0)		4.0	25.0
		女	11	90.9	72.7	75.5		6 (45.5)	5 (18.2)	4.5	45.5
		市内居住者	14	92.9	64.3	71.4		6 (35.7)	5 (21.4)	4.3	35.7
		市外居住者	1	100.0	100.0	100.0		6 (100.0)		6.0	100.0
	少機た 年期的に を代に 考対 え處 る危	全 体	85	87.1	58.8	72.5	6	6 (37.6)	5 (18.8)	4.4	37.6
		男	17	94.1	58.8	71.8		6 (47.1)	1, 2, 3, 4 (11.8)	4.3	47.1
		女	68	85.3	58.8	72.8		6 (35.3)	5 (22.1)	4.4	35.3
		市内居住者	64	82.8	65.6	76.3		6 (40.6)	5 (21.9)	4.6	40.6
		市外居住者	21	100.0	38.1	61.0		3, 6 (28.6)	1 (23.8)	3.7	28.6

昭和54年度

形態	科目名	科 目 者 (受 講 生 申 込 数)	受 講 生 (人 数)	出席率 (%)			講 義 日 数 (回)	出席回数 (回) 〔 () 内は% 〕			全 回 比 率 (%)
				第1回	最終回	平均		モード	二番めに 多い回	平均	
長期 (前期)	精神分析学	全 体	127	81.1	42.5	58.9	10	10 (17.3)	8 (11.8)	5.9	17.3
		男	40	77.5	40.0	57.5		10 (17.5)	9 (15.0)	5.8	17.5
		女	87	82.8	43.7	59.5		10 (17.2)	8 (13.8)	6.0	17.2
		市内居住者	98	81.6	38.8	56.0		10 (16.3)	8 (13.3)	5.6	16.3
		市外居住者	29	79.3	55.2	68.6		9 (24.1)	10 (20.7)	6.9	20.7
	ギンギン間の精神の発見	全 体	77	79.2	46.8	57.0	11	11 (19.5)	9 (13.0)	6.3	19.5
		男	30	63.3	43.3	54.3		9 (20.0)	6, 7, 11 (13.3)	6.0	13.3
		女	47	89.4	48.9	58.7		11 (23.4)	2, 4 (10.6)	6.5	23.4
		市内居住者	56	76.8	41.1	54.3		11 (19.6)	6, 9 (12.5)	6.0	19.6
		市外居住者	21	85.7	61.9	64.3		10, 11 (19.0)	9 (14.3)	7.1	19.0
	外国文学への招待	全 体	95	83.2	35.8	53.9	12	10 (13.7)	5 (11.6)	6.5	9.5
		男	18	88.9	33.3	54.4		10 (16.7)	1, 3, 4, 9, 11 (11.1)	6.5	5.6
		女	77	81.8	36.4	53.8		5, 10 (13.0)	1, 12 (10.4)	6.5	10.4
		市内居住者	82	84.1	32.9	53.9		10 (14.5)	5 (13.3)	6.5	9.6
		市外居住者	13	76.9	53.8	53.8		11 (23.1)	0, 6 (15.4)	6.5	7.7
	人類と環境放射能	全 体	45	73.3	22.2	51.1	12	11 (15.6)	7 (13.3)	6.1	2.2
		男	25	76.0	24.0	52.4		7 (16.0)	3, 9, 11 (12.0)	6.3	4.0
		女	20	70.0	20.0	49.5		11 (20.0)	6 (15.0)	6.0	.0
		市内居住者	37	67.6	18.9	48.4		7 (16.2)	11 (13.5)	5.8	.0
		市外居住者	8	100.0	37.5	63.8		11 (25.0)	1, 3, 6, 8, 9, 12 (12.5)	7.6	12.5
	くすりの科学	全 体	71	71.8	46.5	53.1	6	5 (22.5)	4 (16.9)	3.2	11.3
		男	34	67.6	52.9	52.1		5 (23.5)	3 (17.6)	3.1	8.8
		女	37	75.7	40.5	54.1		5 (21.6)	4 (18.9)	3.2	13.5
		市内居住者	55	70.9	50.9	54.9		4, 5 (18.2)	3, 6 (14.5)	3.3	14.5
		市外居住者	16	75.0	31.3	46.9		5 (37.5)	0, 1 (18.8)	2.8	.0
	園芸と野菜講座	全 体	35	88.6	48.6	61.2	12	10 (17.1)	12 (14.3)	7.3	14.3
		男	21	90.5	47.6	62.4		8 (19.0)	4, 10, 12 (14.3)	7.5	14.3
		女	14	85.7	50.0	59.3		10 (21.4)	2, 11, 12 (14.3)	7.1	14.3
		市内居住者	25	88.0	40.0	54.8		2, 12 (16.0)	4, 10 (12.0)	6.6	16.0
		市外居住者	10	90.0	70.0	78.0		10 (30.0)	8, 11 (20.0)	9.3	10.0

長期（後期）	「K大学講座に拠る」 「発達」の心理学 NH	全 体	78	67.9	25.6	48.1	9	2, 9 (14.1)	1, 3 (11.5)	4.3	14.1
		男	26	76.9	26.9	43.8		2, 9 (19.2)	3 (15.4)	4.0	19.2
		女	52	63.5	25.0	50.2		7 (15.4)	1, 2, 5, 9 (11.5)	4.5	11.5
		市内居住者	58	72.4	20.7	46.7		2 (15.5)	3 (13.8)	4.2	10.3
		市外居住者	20	19.0	13.8	52.0		9 (25.0)	0 (20.0)	4.7	25.0
	化学と生活	全 体	44	63.6	40.9	50.7	9	3 (18.2)	1 (13.6)	4.6	11.4
		男	20	75.0	50.0	58.0		8 (20.0)	3, 5, 9 (15.0)	5.2	15.0
		女	24	54.2	33.3	45.0		3 (20.8)	1, 3 (16.7)	4.0	8.3
		市内居住者	33	60.6	36.4	45.8		3 (18.2)	1, 5 (15.2)	4.1	3.0
		市外居住者	11	72.7	54.5	65.5		9 (36.4)	3, 8 (18.2)	5.9	36.4
	「フォークナーの場合」 「シェイクスピア・ヘンリー・ 悲劇としての英米文学」	全 体	65	69.2	46.2	53.6	11	0, 11 (13.8)	2, 7, 10 (9.2)	5.9	13.8
		男	19	63.2	47.4	43.7		0 (26.3)	2, 5, 6, 7, 10, 11 (10.5)	4.8	10.5
		女	46	71.7	45.7	57.6		11 (15.2)	8 (13.0)	6.7	15.2
		市内居住者	54	66.7	50.0	54.1		11 (16.7)	0 (14.8)	5.9	16.7
		市外居住者	11	81.8	27.3	50.9		5, 8, 10 (18.2)	0, 1, 2, 6, 7 (9.1)	5.6	.0
	鉄性と文化史 その物	全 体	22	81.8	36.4	56.6	11	11 (22.7)	0, 1, 4, 5, 6, 9, 10 (9.1)	6.2	22.7
		男	16	87.5	37.5	54.4		11 (31.3)	1, 4, 5 (12.5)	6.0	31.3
		女	6	66.7	33.3	61.7		9 (33.3)	0, 6, 7, 10 (16.7)	6.8	.0
		市内居住者	17	76.5	35.3	51.2		11 (23.5)	0, 1, 4 (11.8)	5.6	23.5
		市外居住者	5	100.0	40.0	74.0		5, 6, 9, 10, 11 (20.0)	/	8.2	20.0
短期集中	現代母親学	全 体	88	80.7	59.1	70.5	7	6, 7 (26.1)	5 (15.9)	4.9	26.1
		男	1	100.0	100.0	100.0		7 (100.0)	/	7.0	100.0
		女	87	80.5	58.6	70.1		6 (26.4)	7 (25.3)	4.9	25.3
		市内居住者	82	82.3	58.5	70.6		6 (28.0)	7 (24.4)	4.9	24.4
		市外居住者	6	50.0	66.7	68.3		7 (50.0)	2 (33.3)	4.8	50.0

昭和55年度

形態	科目名	科目者(受講生)別申込	受講生(人)数	出席率(%)			講義日数(回)	出席回数(回) (()内は%)			全回出席者比率(%)
				第1回	最終回	平均		モード	二番めに多い回	平均	
長期(前期)	日本の児童文学	全 体	62	80.6	58.1	57.3	11	10 (21.0)	11 (11.3)	6.6	11.3
		男	16	87.5	50.0	58.8		11 (24.8)	2 (18.8)	6.4	24.8
		女	46	78.3	60.9	61.1		11 (23.9)	3, 7, 8 (10.9)	6.7	6.5
		市内居住者	45	75.6	57.8	59.8		10 (22.2)	1, 8 (11.1)	6.6	8.9
		市外居住者	17	94.1	58.8	61.8		2, 10, 11 (17.6)	4, 7 (11.8)	6.0	17.6
	職業と人生	全 体	47	68.1	19.1	20.3	11	1, 4 (21.3)	5, 11 (10.6)	4.7	10.6
		男	25	76.0	20.0	46.0		4 (20.0)	1 (16.0)	5.0	12.0
		女	22	59.1	18.2	40.0		1 (27.4)	4 (22.7)	4.4	9.1
		市内居住者	35	68.6	17.1	43.1		1, 4 (22.9)	5, 6 (11.4)	4.7	8.5
		市外居住者	12	66.7	25.0	43.3		3 (25.0)	1, 4, 11 (16.7)	4.8	16.7
	「年間の自然とヒトと人類の時代」二百万と	全 体	76	77.6	64.5	66.3	11	11 (19.7)	9 (14.5)	7.3	19.7
		男	35	77.1	62.9	67.7		11 (28.4)	9 (14.3)	7.5	28.4
		女	41	78.0	65.9	64.9		10 (19.5)	9 (14.6)	7.1	12.2
		市内居住者	63	76.2	63.5	63.7		11 (17.5)	10 (14.3)	7.0	17.5
		市外居住者	13	84.6	69.2	79.2		9, 11 (30.7)	2, 6, 7, 8, 10 (7.7)	8.7	30.7
	中国の成立と展開―諸思想―	全 体	88	81.8	44.3	55.6	12	12 (18.2)	10 (10.2)	6.7	18.2
		男	37	83.8	48.6	60.0		12 (27.1)	2 (10.8)	7.2	27.1
		女	51	80.4	41.2	52.5		10 (13.7)	7, 12 (11.8)	6.3	11.8
		市内居住者	72	81.9	38.9	52.9		12 (15.3)	7 (11.1)	6.3	15.3
		市外居住者	16	81.3	68.8	67.5		12 (31.3)	3, 8, 9, 10 (12.5)	8.1	31.3
	ユーティリティと電気工學ビ	全 体	50	76.0	42.0	53.4	10	6 (18.0)	10 (16.0)	5.3	16.0
		男	37	78.4	43.2	51.1		6 (18.9)	10 (13.5)	5.1	13.5
		女	13	69.2	38.5	60.0		10 (23.1)	6, 9 (15.4)	6.0	23.1
		市内居住者	40	77.5	42.5	54.8		6 (17.5)	10 (15.0)	5.5	15.0
		市外居住者	10	70.0	40.0	48.0		3, 4, 6, 10 (20.0)	0, 2 (10.0)	4.8	20.0
	日本の社会と文化	全 体	72	73.6	43.1	46.7	10	10 (13.9)	2 (12.5)	4.7	13.9
		男	32	65.6	46.9	48.1		10 (18.8)	1, 6 (15.6)	4.8	18.8
		女	40	80.0	40.0	45.5		2 (15.0)	4 (12.5)	4.6	10.0
		市内居住者	55	70.9	41.8	44.4		2 (14.5)	0 (12.7)	4.4	10.9
		市外居住者	17	82.4	47.1	54.1		10 (23.5)	1, 3, 5, 6 (11.8)	5.4	23.5

長期（後期）	雪と生活	全 体	47	74.5	38.8	52.1	10	10 (23.4)	1, 6 (14.9)	5.2	23.4
		男	24	70.8	41.7	56.3		10 (33.3)	1 (16.7)	5.6	33.3
		女	23	78.3	34.8	47.8		4, 6 (17.4)	1, 5, 10 (13.0)	4.8	13.0
		市内居住者	33	66.7	30.3	48.2		6 (18.2)	1, 5, 10 (15.2)	4.8	15.2
		市外居住者	14	92.9	57.1	61.4		10 (42.9)	1, 4 (14.3)	6.1	42.9
	西欧近代の美術	全 体	76	69.7	35.5	50.1	9	2 (17.1)	6 (13.2)	4.5	11.8
		男	20	75.0	40.0	58.5		5, 9 (20.0)	4, 6 (15.0)	5.3	20.0
		女	56	67.9	33.9	47.1		2 (19.6)	6 (12.5)	4.3	8.9
		市内居住者	61	68.9	39.3	50.2		2 (18.0)	6 (14.8)	4.5	11.5
		市外居住者	15	73.3	20.0	50.7		4 (20.0)	0, 2, 3, 7, 9 (13.3)	4.5	13.3
	近代科学の成立	全 体	34	67.6	50.0	60.9	9	8 (17.6)	9 (23.5)	5.5	17.6
		男	18	72.2	55.6	63.3		9 (22.2)	8 (16.7)	5.7	22.2
		女	16	62.5	43.8	57.5		8 (31.3)	4 (18.8)	5.2	12.5
		市内居住者	27	63.0	55.6	59.3		8 (25.9)	9 (14.8)	5.3	14.8
		市外居住者	7	85.7	28.6	67.1		9 (28.6)	2, 3, 4, 7, 8 (14.3)	6.0	28.6
短期集中	現代の断絶	全 体	51	70.6	66.7	69.2	7	7 (37.3)	6 (17.6)	4.8	37.3
		男	18	66.7	66.7	68.3		7 (44.4)	6 (16.7)	4.8	44.4
		女	33	72.7	66.7	69.7		7 (33.3)	6 (18.2)	4.9	33.3
		市内居住者	42	70.5	68.2	67.5		7 (38.1)	6 (16.7)	5.0	38.1
		市外居住者	9	71.4	57.1	80.0		7 (33.3)	0, 6 (22.2)	4.3	33.3

日(回)である。次に、出席回数は、申込みをして全く出席しなかった(0回)人も含め、全日数(回数)のうち1回しか出席しなかった人、2回出席した人、以下、全日程(全回)に出席した人をまず求め、そのうち、人数の最も多い回は何回か、また二番目に多い回は何回かを表わすもので、数字はその回数である。なおその場合()内の数字は受講生のうちの何パーセントであることを示す比率である。「現代の法」の場合は、受講生全体では0回つまり申込みをしただけで全く講義に出席しなかったという人が最も多く、次いで1回しか出席しない人が二番目に多いということを示している。また、全講義日数11回のうち、受講生全体の平均出席回数は4.3回ということになる。さらに、11回全部に出席した「全回出席者」は、全体の12.2パーセント、男では17.0パーセント、女では17.0パーセントであったことを示している。

2. 出席回数から見た科目の特徴

(1) 全回出席者が多い科目

表より、全回出席者即ち講義第一日めから最終日まで皆出席をした人数の、科目別申込者数に対する比率を検討する。この全回出席者比率は、男・女の別なく「全体」では、最低2.2パーセント(54・人類と環境放射能)から、最高75.6パーセント(52・新入学児を理解する)までである。そして、この表に示す4年間の合計46科目を平均した全回出席者比率は、18.1パーセ

ントとなる。だが、46 科目中この平均値をこえる科目の数は 17 科目であり、3 分の 1 あまりにすぎない。逆に、平均値以下である 29 科目のうち、10 パーセントに満たないものが 8 科目ある。

そこで、全回出席者比率が 20 パーセントをこえる科目を列記してみよう。このパーセントという数値は平均値よりもわずかしこ高くないが、5 人に 1 人以上は皆出席という 13 科目は、46 科目の中では「全回出席者比率の高い科目」として位置づけられるように思われる。

52・サンスクリット語入門	52・日本の政治	52・中学生
52・新入学児を理解する	53・中国語	53・物質の世界
53・生命の科学	53・生活とエネルギー	53・少年期を考える
54・鉄と鋼	54・現代母親学	55・雪と生活
55・現代の断絶	(数字は年度を示す。副題等は省略。)	

これらの科目の特性としては、①長期講座（年間継続講座も含む）よりも短期集中講座の科目に見られる、②受講生数があまり多くない、どちらかといえば少ない科目である、ということがいえる。

①については、講座開設数からいえば、短期集中講座は表に示す全ての科目が 20 パーセントをこえているが、長期講座では 39 科目中 6 科目である。短期集中講座の場合、短期間（1～2 か月）で講座が終了することに加え、講義回数が少ないことも反映していると思われる。また、②については、短期集中講座の科目で受講生数が 80 名をこえる科目があるとはいえ、全体的に受講生数が少ない。長期講座の場合、多くても 47 名で、50 名をこえる科目はない。

では、全回出席者比率が 10 パーセントに満たない科目をとりあげて、その特徴を考えよう。

52・人間と自然	52・仏教思想	52・現代と病気
53・万葉の植物	53・海底の科学	53・教育学の基礎
54・外国文学への招待	54・人類と環境放射能	

これらの科目の特徴は、各科目の受講生数が比較的多いということがまずいえる。上記科目のうち、最も少ない受講生数でも 44 名（52・現代と病気）、52・仏教思想は 109 名である。また、52 年度の科目のように、前年度と同じテーマで開設された科目（ただし内容は異なっている）であることから、出席者が減少していったとも考えられる。テーマが前年度に重複することの他に、いくつかの科目では、各回の内容を考えると、かなり専門的な事柄についての講義が多いということも指摘できるように思われる⁽⁴⁾。

（2） 0 回出席者、1 回出席者が多い科目

次に、表 6 から、「出席回数」の 0 回、1 回が多い科目について検討する。

出席回数が 0 回ということは、受講申込みをしただけで、実際には一度も講義を聴講していないということである。開講科目のテーマに興味をもったものの、何らかの理由で参加できなかったと一応考えられる。しかし、年度ごとに見ると、「0 回」というのが「モード」に見られるのは 52 年度に多い。これはおそらく、51 年度と同じようなテーマの科目が 52 年度にも開講されたという、先と同じ理由が考えられる。とはいっても、53・企業経営と法、54・悲劇としての英米文学、などは、やはり何らかの受講生側の理由により参加できなかったものと考えられる。さらにまた、「モード」に 0 回がないとしても、二番目に 0 回という人の多い科目があり、これらについては、今後さらに検討していかなければならない問題点である。

では、出席回数の「モード」に 1 回という受講生の多い科目にはどのような特徴があるであ

ろうか。1回しか出席しないということは、講義の第1日めに出席する場合もあるし、講義日程の途中である場合もある。だが、一度は講義を聞いているわけで、出席を中止する理由の一つに、受講生側の理由を別として、講義内容等に一定の評価をした結果であるということが含まれる。したがって、これについても今後十分検討していかなければならないと思われる。ここでは表6から知ることのできる科目の特徴を考えてみよう。

モードにあげられていなくても、二番めに1回という受講生の多い科目が、52年度の科目に多い。これはおそらく、先の52年度に0回が多かったのと同じ理由によると思われる。53年度以後については、1回という科目は多くない。年をおって次第に減ってきているといえよう。「モード」に1回が現われているのは、53・万葉の植物、53・西鶴の文学、53・入門考古学、53・教育学の基礎、55・職業と人生、の科目である。これらの科目に見る限り、分野による違いは特に考えられないといえる。また、講義日数もそれほど関係しているとは考えられない。だがしかし、受講生特性との関連で考えてみると、例外はあるが、男よりも女の受講生数の方が多い科目でしかも、その女の受講生が1回しか出席していないという科目である場合が多い。受講生の期待と一致していなかった科目であったためか、あるいは、1回だけしか出席しなかった人には不満な科目であったということなのかも知れない。

(3) 受講生特性との関連

最後に、受講生特性—ここでは性別と居住地別—との関連で、出席回数を検討する。

これまで、(1)、(2)では、受講生特性との関連についてはあまり触れてこなかった。だが、各科目の受講生が、どのような出席状況を示すかについて、性別、居住地別に分けてみると、出席回数に大きな特徴が現われる。それらとの関係で科目の特徴を検討すれば、よりはっきりと出席回数についての把握が得られよう。

受講生特性との関連でいうと、いくつかの例外はあるにせよ、次のようなことがいえる。①各科目ごとの全回出席者比率は、性別構成のどちらか多い方の出席に左右されるのは当然であるが、各科目の男女別の全回出席者比率は、全体として女よりも男の方が高い値を示している。②市内居住者と市外居住者とを分けた各科目の全回出席者比率では、全体として市外居住者の方が高い比率を示している。だが、市外居住者1人当り全講義日数のうち平均何日くらい出席するかという値を、市内居住者と比べると、必ずしも多く出席しているわけではない。したがって、市外からの受講生の場合、熱心な受講生は欠席しないように参加するが、逆に出席回数の少ない人もかなりいるということである。

ま と め

今回は、受講生の年令、性別、居住地域などとの関連で、受講維持率—出席回数の分析を行った。各科目の講義第一日めよりも最終日の方が出席率は低くなることはわかっていたが、どのような人が出席を続け、どのような人が途中で出席を中止してしまうのか、これまであまり手がかりとなることがなかった。本稿はその手がかりの一端を与えるものであると考える。もちろんより一層くわしい分析を今後行なう予定である。ここで明らかになったことを仮説的にまとめると、次のようなことを指摘することができよう。

- (1) 受講申込者は科目を選んで受講するようになってきている。すなわち、どの科目も受講するという姿勢から、選択的受講へと変化してきている。

- (2) 長期講座の受講生特性は、前期と後期とでは異なる。
- (3) 受講生の年令別構成を調べると、最も多い受講生は 40 才代の人である。
- (4) 科目によって受講生の年令構成等にちがいがあある。
- (5) 受講維持率は、女よりも男の方が高い。
- (6) 全回出席者比率は、女よりも男の方が、市内在住者よりも市外在住者の方が、それぞれ高いといえる。

注

- (1) 前稿とは次のものをさす。「大学開放事業の実証的研究(その1)―開放講座への出席率の分析―」(『生涯教育の展開―日本生涯教育学会年報第1号』 日本生涯教育学会編 ぎょうせい 1980 所収)。
- (2) ただし、前稿でも述べたが、昭和 51 年度における、各科目講座への毎回の出欠状況を示す出席簿はないので除いた。
- (3) 性別に見た受講生の年令別構成についてはすでに次の文献・資料があるが、今回のものは年令別構成のカテゴリー区分のしかたが異なる。「金沢大学開放センターの5年―長期講座とその受講者を例として―」(古野有隣 『IDE―現代の高等教育』 No.218 1981 3月号 民主教育協会 所収 p36~42)。
- (4) 各科目の講義内容については、センター紀要創刊号および第2号の「彙報」部分を参照のこと。講義各回のテーマが示されている。